東邦大学薬学部
薬用植物園へ
習志野市生健会

6月16日、習志野市の生活と健康を守る会主催で東邦大学薬学部付属「薬用植物園」（船橋市）の見学会が行われました。

東邦大学薬学部には3か所の薬用植物園があります。校門を入って一番目立つのが南園、その他に薬木園、北園があります。これらは薬学設置基準に基づいて設置されたものです。

雨は降っていない。猛烈暑い日差しです

今日見学するのは南園。園芸技術員の川上剛さんにご説明いただきました。梅雨の晴れ間もないころ、小学校の先生から「奄美大島ではソテツの毒を抜いて一日3回食べている」と教えられたことを思い出しました。食糧難ということもあったのでしょうが、奄美の人々の生活の厳しさ、たくましさに衝撃を受けたこと思い出しました。

カザグルマの種子(北園)

ラベンダーの利用法について、「刈りとって精油を抽出しています」との説明を聞いているその時、ジャコウアゲハが飛んできました。「この蝶は珍しいんですよ。なんでうちにはこれが来るかというと、彼らの食草は毒草のウマノスズクサなんです。これがたくさん植栽されているからなんですね」、「彼らは体内にその毒を持っているから天敵にやられない。だからゆったり飛んでいるでしょ」。「天敵」も、自然界に生きるためには学習をするのですね。

「ラベンダーから採れる油は何に使われるんですか」と参加者が質問しました。「殆どが香料や食品の香りづけとか、精神を和らげる薬用としても使われます」。「ジンチョウゲ、マツバボタンも薬草です」と川上さんが解説をすすめていきます。

「ボタンは根皮、シャクヤクの場合は根皮をはがした根を薬用」にするとのことです。「これらは今はボタン科に分類されていますが、元々はキンポウゲ科なんです」との説明でした。

トウキ（セリ科）冷え性、月経不順、貧血に効く

ゲンノショウコは、今日の参加者の殆どが知っていて、「薬用に使っていた。胃腸が悪いとき親から飲まされた」と言っていました。そこは皆さんの年の功というべきでしょうか。「止血にも使える」とのことです。

ノイバラ。果実を便秘薬として使う

きれいな白百合のような花が咲いています。

どこかで見知った紫の花が咲いています。「クガイソウ」といわれ、たぶん山登りをしていた時に見たのでしょう。輪生した葉が特徴的です。漢字で九蓋草と書くのはこの姿からついた和名です。「リウマチや関節炎などの痛み止め」として毒性を利用するそうです。

「ニオイイリスは根を干しあげると、香料として使います」、…まだまだ説明はつづきますがこの続きは実際に見にいって、花の姿を愛でながら楽しみつつ学ぶことにしましょう。薬草園、今日見せていただいたのはほんの一部です。

「これはインドハマユウ。かなり毒性が強くて、ヒガンバナ科ですね」。睡蓮鉢の中に黄色い水草がさいています。「コウホネ（河骨・川骨＝センコツです。表示版を見てください。〝局〟と表示されています。日本薬局方で登録され、薬として扱っているという意味です。根を止血や利尿、痛み止めに使います。漢方では一つだけでなく色々なものと組み合わせて使います」。

積極的に市民に公開するのは、大学が地域の人々と相互理解を深めようということでしょう。ぜひ見学に行かれることをお勧めします。

（文・写真　佐久間勉）

▼東邦大学薬学部付属薬用植物園
船橋市三山2―2―1
☎047（472）1349
休園は土日、祝日。入試等見学できないことがあります。
守衛室に申し出て記名し、ご自由にご覧ください。
団体（8人～）の場合事前にHPから申込みが必要です。